

区立済美養護学校（令和 6 年 3 月 8 日実施）意見交換会

意見交換会で出た意見 ※抜粋

- どんな子どもでも健全にらせるまち。揶揄された経験があるわけではないが、先回りして気にしてしまいい外に出る経験をほぼしていないので、障害について、より周りが理解してくれて遊びに行きたいと思ったらいつでも行ける空気になるとよい。
- 学童は週 3 日以上という決まりがあるが、放課後等デイサービスの送迎の関係で厳しいこともある。障害児は 1 時間 1 人で過ごすことが難しいのにそのような事情が考慮されないのがもどかしく、柔軟に対応してもらえるとよい。
- 放課後等デイサービスは長期休みの期間は 11 時からなど、働く親にとってはどうにもこうにも厳しい時間帯なので、長期休みの期間は親に来てもらっててもらったり、中学生になって少し留守番できるようにしたので 1 人で留守番してもらったり。小学生は学童クラブがあるが、中学生になると預け先がない。
- 小 4 以上で走り回ってしまう子どものことを、みんなが遠巻きにして「あの子（人）ってあだよね。」という感じで見ている。障害児（者）のことを理解してくれるまちになって欲しい。特別支援学級がある学校の保護者はわかってくれる。障害児（者）と触れ合ったりした経験があるかないかで違ってくるように思う。
- 小学校低学年のうちと一緒に過ごしても大丈夫だったが、学年が上がると副籍のときにできることが少なくなってきて、子ども自身もそのことがわかってくると行きたがらなくなった。地域交流はしたいが、子どもが行きたがらないのにそこまでするかどうかが悩む。その子どもに合った内容で実施したり、その子ができる活動をつくったりという工夫があれば行けるのに、行かせることについてすぐ迷う。
- バス停で子どもと通学バスを待っていたら、自転車の人に怒鳴られてびっくりした。たばこポイ捨ての罰金制度ができてから、ポイ捨てる人が少し減ったように感じているので、子どもの権利に関する条例の中にマイノリティのある人への暴言等に対して抑止力につながることを入れられないか。何もしてないのという理不尽なことがなくなるようにして欲しい。
- 副籍交流について、以前、親子で行ったときはお客様のようになってしまったので、こちらが大勢の中に行くのではなく、通常級の子どもたちが 10 人くらいのグループで済美擁護学校に来てくれたらいいのではないかと。